

インドネシア伝統芸能団ハナジョス

ガムランパーティー

本公演に出演いただく「ハナジョス」の活動拠点である大阪のスタジオでお話を伺いました。ハナジョスはジャワガムランとしては珍しい 2 人という少人数グループ。11 月にはこのお二人が日南・都城へ、12 月にはさらにジャワ芸能の仲間が加わり、劇場で賑やかな演奏をお届けします！



ローフィさん

ささきひろみさん

▲スタジオにて。伝統的な染布「バティック」のシャツを着用している

— 普段どんな活動しているんですか？

ひろみ 演奏活動や演奏指導のほか、ガムランサークル「コンチョ・コンチョ」の運営などもしています。とにかく楽しみたい人が来る、という自由な雰囲気大切にしています。住宅街にあるスタジオなので、近隣の方々のご理解も不可欠です。地元のお祭りや敬老会に出演してガムランを知ってもらったり、ローフィは畑仕事や消防団の活動に参加するなど、地域のみなさんとのコミュニケーションが大事だと考えています。

— ローフィさんのガムランとの出会いは？

ローフィ インドネシアの私の家にはガムランのセットがあり、学校の授業でも生徒が家に来て演奏していました。だから家ではいつもガムランの音が聴こえていました。弾き始めたのは小学 2 年生で、意外とすぐ弾けちゃった。「あんた向いてるんじゃない？」と先生に言われたのが音楽の道を志すきっかけでした。小学生のコンクールにも出て、メダルやトロフィーをもらったりもしました。その後は芸術高校に進み、本格的にガムランを学び、ジョグジャカルタのインドネシア芸術大学に進学しました。大学在学中、王宮や国営ラジオ局で演奏する機会もありましたが、「海外で挑戦したい」という気持ちも抱いていたんです。そんな時、フィンランドのアジアフェスティバルに出演し「ガムランは世界でも通用する」と実感しました。

— ささきひろみさんのガムランとの出会いは？

ひろみ 小さい頃からピアノを習っていて、神戸の大学でも音楽を

専攻しました。民族音楽学の授業でガムランの音に出会い、「この音楽はなんだ？」と興味を持って調べ、春休みに短期留学でジャワに行き先生のもとで住み込みで練習したんです。そこで「もっと学びたい」と思い、卒業後に 2 年間留学しました。インドネシア芸術大学では、優秀な学生は夜の演奏会に忙しく、大学の授業に出てこないことも多かった。しかしローフィは夜の演奏会、朝の大学と、どちらも真面目に参加している学生でした。ローフィと意気投合して授業後のサークル活動のようなノリで大学のスタジオにこもり、一緒に練習したり、日本のケータイ着メロを作曲録音し、投稿していました。その中でグループ名を決めたいねという話になり、日本語の「花」とジャワ語の「よっしゃ!」「ファイトー発!」みたいな意味の「Joss」を掛け合わせた「ハナジョス」というグループを結成しました。

— そしてそのまま日本に？

ひろみ はい。私の留学の期限や、ローフィの海外活動の夢も重なり、日本に来ることになりました。

— 地元ジャワでは、ガムランやワヤン*はどんな時に演奏されるんですか？

ローフィ 子どもの誕生や結婚式、村のお祭りや国の記念日、そしてお葬式と、さまざまな場で演奏されます。豊作祈願や疫病退散にも用いられ、コロナの時も祈りを込めて演奏が行われました。

— 影絵人形を動かすダラン（人形遣い）には誰でもなれるんですか？

ひろみ なかなかねません。人形さばきや声の質、話の面白さなど、総合的に人を惹きつける力が必要です。ダランの家系に生まれた人も、ワヤンが大好きでダランを目指す人も、特別な力を得るためでしょうか、川に入って祈ったり、断食をしたりと、自らに修行を課すこともあります。

— ローフィさんはどうやってダランに？

ローフィ 私はお菓子屋の子でしたが、幼い頃からワヤンが好きで、厚紙で自作していました。高校の頃、職人やダランの家系の人に出会い、「もったいないから皮で作りな」と言われて、少しずつ水牛の皮を買って挑戦しました。有名なダランに演奏で呼ばれたり、友人がワヤンをする時にはサポートするなど、人との関わりの中で自然と道が開けていきました。今使っている人形の多くは職人さん作ですが、一部簡単なものは自分で作りました。

* 中部ジャワでは、ワヤン・クリ(影絵芝居)のことをワヤンと略することが多い。

— 今回上演する「おいしそうなピモ」とは？

ひろみ ジャワでも人気のキャラクター、ピモが鬼を退治する物語です。病気や災害を鬼に見立て、平和を願って演じられます。深刻な場面もありますが、道化が笑いを取ったりするので、伝統芸能だからと肩肘張らずに楽しめます。

— 11 月には日南と都城で無料公演もありますね。

ひろみ 日南では「アルジュノの鬼退治」。アルジュノはピモと並ぶ人気のヒーローで、天界で暴れる鬼をやっつけ、神から妻を授かります。「おいしそうなピモ」と同様、インドの神話「マハーバーラタ」の物語の一部で、どちらもよく上演されるメジャーな演目です。都城では屋外なので影絵ではなく、人形芝居「ワヤン・カンチル」を上演します。世界一小さな鹿、ジャワ豆鹿のカンチルが、知恵で

強者を出し抜く民話です。「因幡の白うさぎ」が海を渡って伝わったんじゃないか？というぐらいよく似ているんですよ。「ワヤン・カンチル」の歴史はかなり古いようですが、ワヤン人形作家のルジャーさん（12 月に出演するアナント・ウィチャクソノさんのおじいさんです！）が、主人公のカンチルをはじめ、さまざまな動物のワヤン人形を作り、現代に復活させました。今では子どもたちに大人気のワヤンです。

— 最後に一言お願いします。

ローフィ 「今日楽しかったことは持って帰って、楽しくなかったことはここに置いて帰ってくださいね」。これはワヤンのセリフにもある言葉です。伝統芸能だからと一生懸命観ると疲れちゃうから、気軽に楽しんでもらえたら嬉しいです。

＊ガムラン紹介コーナー



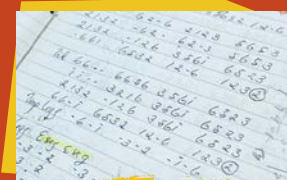
ささきひろみさん

「ガムラン」は、「ガムル=叩く」という言葉に由来します！



グンデル

下に筒があり、音が長く柔らかく響く。



楽譜

ドレミではなく、楽譜は数字で表される。この数字からさらに読み取って演奏する必要がある。



サロン

キラキラした音色が特徴。青銅の鍵盤を木のハンマーで叩く。



クンダン

指揮者のように演奏をリードする太鼓。叩き方でいろんな音色を出せる。



ゴン

物語の一番最後に鳴る低い音



ワヤン・クリ(影絵人形)

水牛の皮から作った人形。ダラン(人形遣い)一人で操り、語りも担当
※ワヤン・クリは影絵芝居、またそれに使う人形のことも指す。



ローフィさん

ワヤンの人形さばきも見どころですが、実は足も使って音を出したり、体全部使って表現しています！

公演情報

12/14

インドネシア伝統芸能団ハナジョス
ガムラン・パーティー!
13:30開場 / 14:00開演

本番直前
ワークショップも
開催!

会場：イベントホール

出演：インドネシア伝統芸能団ハナジョス（ローフィ、ささきひろみ）
岩本象一、東山真奈美、ナナン・アナント・ウィチャクソノ
西岡美緒

関連イベント

11/1 日南公演

11/2 都城公演

※詳細はHPへ

